

1 対象作物 キャベツ

2 対象病害虫 コナガ

3 供試虫および検定方法

(1) 供試虫

平成26年5月15日に霧島市溝辺町（2地点）、5月22日に指宿市山川町（1地点）のキャベツほ場で採集された蛹、幼虫を25℃の室内および恒温器で飼育し、第2世代の3齢幼虫を用いた。

(2) 検定方法

葉片浸漬法

キャベツの葉を所定濃度薬液に30秒間浸漬、風乾後、直径9cmの濾紙を敷いたシャーレ内に置き、3齢幼虫を10頭放飼した。放飼後のシャーレは25℃設定の室内に静置し、処理24、48、72時間後に生死を調査し、苦悶虫は死亡虫とした。各処理区とも3反復行った。

4 検定結果の利用上の留意点

検定結果は各地点の1ほ場から採集したものに由来するため、薬剤感受性は地域やほ場によって異なることが予想される。

表1 各種薬剤のコナガ3齢幼虫に対する効果

供試薬剤名	(系統名)	希釈倍数	補正死虫率 (%)				
			山川	溝辺1	溝辺2	大隅	串良
プレバソンFL5	(ジアミド)	2,000	8.3	30.0	60.0	23.3	68.9
			19.2	23.3	56.7	-	-
フェニックス顆粒水和剤	(ジアミド)	2,000	45.8	33.3	70.0	13.3	65.5
オルトラン水和剤	(有機リン)	1,000	29.2	86.7	-	53.3	79.3
トレボン乳剤	(合ピレ)	1,000	8.3	6.7	3.3	26.7	17.1
ランネート45DF	(カーバメート)	1,000	-	10.0	-	23.3	35.7
パダンSG水溶剤	(ネライストキシシン)	1,500	83.3	100	-	100	100
カスケード乳剤	(IGR)	2,000	37.5	76.7	-	20.0	100
アフーム乳剤	(マクロライド)	1,000	87.5	86.7	93.3	93.3	100
アニキ乳剤	(マクロライド)	1,000	-	86.7	-	86.7	96.5
スピノエース顆粒水和剤	(マクロライド)	2,500	-	100	-	100	100
ディアナSC	(マクロライド)	2,500	100	100	100	100	100
ゼンターリ顆粒水和剤	(BT)	1,000	95.8	100	100	93.3	89.6
プレオFL	(その他)	1,000	83.3	86.7	96.7	93.3	79.3
アクセルFL	(その他)	1,000	-	73.3	-	86.7	85.7
ハチハチ乳剤	(その他)	1,000	-	50.0	-	53.3	65.5
トルネードエースDF	(その他)	2,000	100	36.7	-	100	96.5

注1) 大隅、串良のデータは大隅支場試験データを参考として引用

注2) プレバソンFL5は2回試験を実施

表2 コナガ3齢幼虫のプレバソンFL5に対する感受性

供試薬剤名	常用濃度	LC50 (ppm)				
		山川	溝辺1	溝辺2	大隅	串良
プレバソンFL5	25ppm	203.37	166.02	6.80	>50	4.93

注1) 大隅、串良のデータは大隅支場試験データを参考として引用

注2) 常用濃度：希釈倍数2,000倍の濃度